

## 計画改定の趣旨

### マザーレイク21計画の改定に当たって

- ・安全・安心で便利な暮らしと引き換えに広がってしまった私たちと「水」との距離
- ・そのために気付くことが難しくなってしまった身近な生態系の変化
- ・これらを踏まえて「琵琶湖流域生態系の保全・再生」と「暮らしと湖の関わりの再生」を二つの柱とし、計画を改定する
- ・マザーレイク21計画は、母なる湖を愛する思いでつながり、多様な取り組みを互いに尊重する琵琶湖総合保全の指針

## 第1章 基本理念とあるべき姿

### 1 基本理念

琵琶湖と人との共生(琵琶湖を健全な姿で次世代に継承します)

### 2 琵琶湖のあるべき姿

活力ある営みの中で、琵琶湖と人が共生する姿

### 3 基本方針

- 共感 ■共存 ■共有

### 4 全県をあげた取り組みー協働ー

### 5 琵琶湖保全の規範

- 一、琵琶湖の価値
- 二、主体的な参画
- 三、参画の心得
- 四、世界の湖沼への貢献

## 第2章 第1期計画期間の評価

### 1 分野別課題

- (1) 水質保全
  - ・目標に近づいている
  - ・「難分解性有機物の増加」や「湖の栄養塩バランスの変化」などの新たな問題
- (2) 水源かん養
  - ・目標は達成されていない
  - ・「野生鳥獣や病害虫などによる森林被害」や「利用期を迎えた人工林の活用」などの新たな問題
- (3) 自然的環境・景観保全
  - ・目標はほとんど達成されていない
  - ・「南湖における水草の異常繁茂」や「カワウの増加」などの新たな問題

### 2 総合的な課題

- ・河川流域単位の取り組みは、組織化や行政の支援方法に課題
- ・琵琶湖を含めた流域を一つの系とし、一体として保全する視点の不足
- ・琵琶湖・淀川水系全体における琵琶湖の総合保全の必要性
- ・「地球温暖化」「生態系サービス」「順応的管理」など保全のための新たな概念の登場

# マザーレイク21計画(琵琶湖総合保全整備計画)第2期改定版の概要

～思いをつなぎ、命をつなぐ。母なる湖のもとに～

## 第3章 新たな取り組みの方向性

### 1 琵琶湖流域生態系の保全・再生

琵琶湖とその集水域全体を一つの系として捉え、それらがもたらす恵み(サービス)が安定的、持続的に供給されるよう、一体的に取り組む  
琵琶湖流域を「湖内」「湖辺域」「集水域」の3つの場に区分し、それらの「つながり」とともに目標と指標を設定し、取り組む

### 2 暮らしと湖の関わりの再生

琵琶湖流域生態系の保全・再生のためには、人々の暮らしのありようの見直し、ライフスタイルの変革が不可欠  
暮らしと湖の関わりを「個人・家庭」「生業(なりわい)」「地域」の3つの段階に分け、それらの「つながり」とともに目標と指標を設定し、取り組む

## 第6章 施策の展開

### 1. 琵琶湖流域生態系の保全・再生

〈湖内〉在来生物の保全  
〈湖辺域〉水質保全、水草異常繁茂対策、外来生物の防除・駆除など  
〈集水域〉森林の保全再生、中山間部・平野部の環境保全再生など  
〈つながり〉河川を中心とした生態回廊の再生など

### 2. 暮らしと湖の関わりの再生

〈個人・家庭〉琵琶湖を大切にする暮らしの啓発、自然とのふれあいの推進など  
〈生業(なりわい)〉農林水産業の活性化と環境保全との両立、企業の環境保全活動の支援など  
〈地域〉自然とくらしの価値再発見、県民活動・地域の保全活動の支援など  
〈つながり〉ネットワーク形成の支援、多様な学びの場の確保、情報提供の充実など

## 第7章 重点プロジェクト

琵琶湖の総合保全という大きな目標を達成するため、組織の縦割りを超え、部局横断で各種事業を総合的、一体的に実施することが必要  
第6章の施策のうち、目標の達成に大きく寄与し部局連携により効果が高まる施策を重点プロジェクトとして取り組む

### 1 「近い水」のある暮らし再生プロジェクト

### 2 琵琶湖の生きものにぎわい再生プロジェクト

- (1) 南湖再生プロジェクト
- (2) 内湖再生プロジェクト
- (3) 外来生物等対策プロジェクト

### 3 森・川・里・湖のつながり再生プロジェクト

### 4 水環境の保全プロジェクト

## 第4章 計画の目標等

### 1 計画対象区域

滋賀県域(下流淀川も念頭に置く)

### 2 計画期間

平成11(1999)年度から平成32(2020)年度  
(第1期:1999~2010年度 第2期:2011~2020年度)

### 3 計画目標

【琵琶湖流域生態系の保全・再生】  
【暮らしと湖の関わりの再生】  
(それぞれ右図のとおり設定)

### 4 他の計画との調和

滋賀県基本構想、滋賀県環境総合計画等との調和

### 5 目標達成のための指標・施策(事業)の進行管理

## 第2期目標

### ■琵琶湖流域生態系の保全・再生

湖内・湖辺域・集水域を行き来する在来生物の増加

〈つながりへの配慮〉

湖内・湖辺域・集水域を行き来する在来生物の増加

〈湖内〉良好な水質と栄養塩バランスの回復

〈湖辺域〉絶滅に瀕する在来種の種数と外来種の減少、在来魚介類の再生産の回復と漁獲量の増加、湖岸景観の回復

〈集水域〉適切に管理された森林や生物多様性に配慮した農地の増加と在来生物の回復

多様で豊かな在来生物群集の再生

### ■暮らしと湖の関わりの再生

地域を越えた活動のための仕組みづくりと、普段の生活の中での湖との関わりの定着

〈つながりへの配慮〉

地域を越えた活動のための仕組みづくりと、普段の生活の中での湖との関わりの定着

〈個人・家庭〉身近な水環境と親しみ、自らのライフスタイルを見直していく人の増加

〈生業(なりわい)〉琵琶湖流域保全と調和した生業の活性化と、企業による地域の環境や文化の保全・再生活動の活発化

〈地域〉地域固有の環境、文化や歴史の再評価と、それらを保全する活動や取り組みの活発化

## あるべき姿

■活力ある営みの中で琵琶湖と人が共生する姿



## 第5章 指標

計画の進捗の度合いを県民に分かりやすく表し、計画の適切な進行管理を行うため、指標を設定する

### 1 指標の役割

- (1) 目標の示す状態を客観的、定量的に示す
- (2) 計画が目標の達成に向かっていくかどうかを表す
- (3) 合意形成の手段として活用する

### 2 アウトカム指標とアウトプット指標

環境や社会の状態を示す「アウトカム指標」と施策の進捗状況を示す「アウトプット指標」を設定する  
指標は、順応的な計画の進行管理において適宜見直しを行う

## 第8章 計画の実効性の確保

### 1 協働の視点に基づく参画・実践・交流

県域、河川流域ごと、琵琶湖淀川流域圏など、それぞれのレベルで多様な主体が参画可能な機会や各主体間の交流、情報共有の場の提供、実践のための活動を支援する仕組みの充実を図る

### 2 順応的な計画の進行管理

- ・PDCAサイクルによる管理
- ・状況に応じ、施策の内容だけでなく、目標や指標も修正を加える順応的管理の手法を踏まえる
- ・多様な主体が参画し、計画の評価・提言および交流の場である「マザーレイクフォーラム」の設置

### 3 調査・研究

行政と試験研究機関が政策的な課題を共有し、成果を課題の解決につなげる